

かるたで巡る天竜物語

～若者と文化財をつなぐ新世代の地域活性化プロジェクト～

静岡県立天竜高等学校
桑原幸弥・渡邊愛里・山下夢花



浜松市天竜区とは・・・



天竜浜名湖鉄道機関車転車台



二俣城跡



天竜スギ

写真提供：浜松・浜名湖ツーリズムビューロー

天竜区には46個も文化財がある



なぜ、私たちが立ち上がったのか

天竜の文化財は、
ただ見るものではなく、
もっと面白くて、
親しみやすい存在なのではないか？

浜松市天竜区が持つ文化財の魅力



深い歴史と、そこに息づく物語



五感を刺激する自然との調和



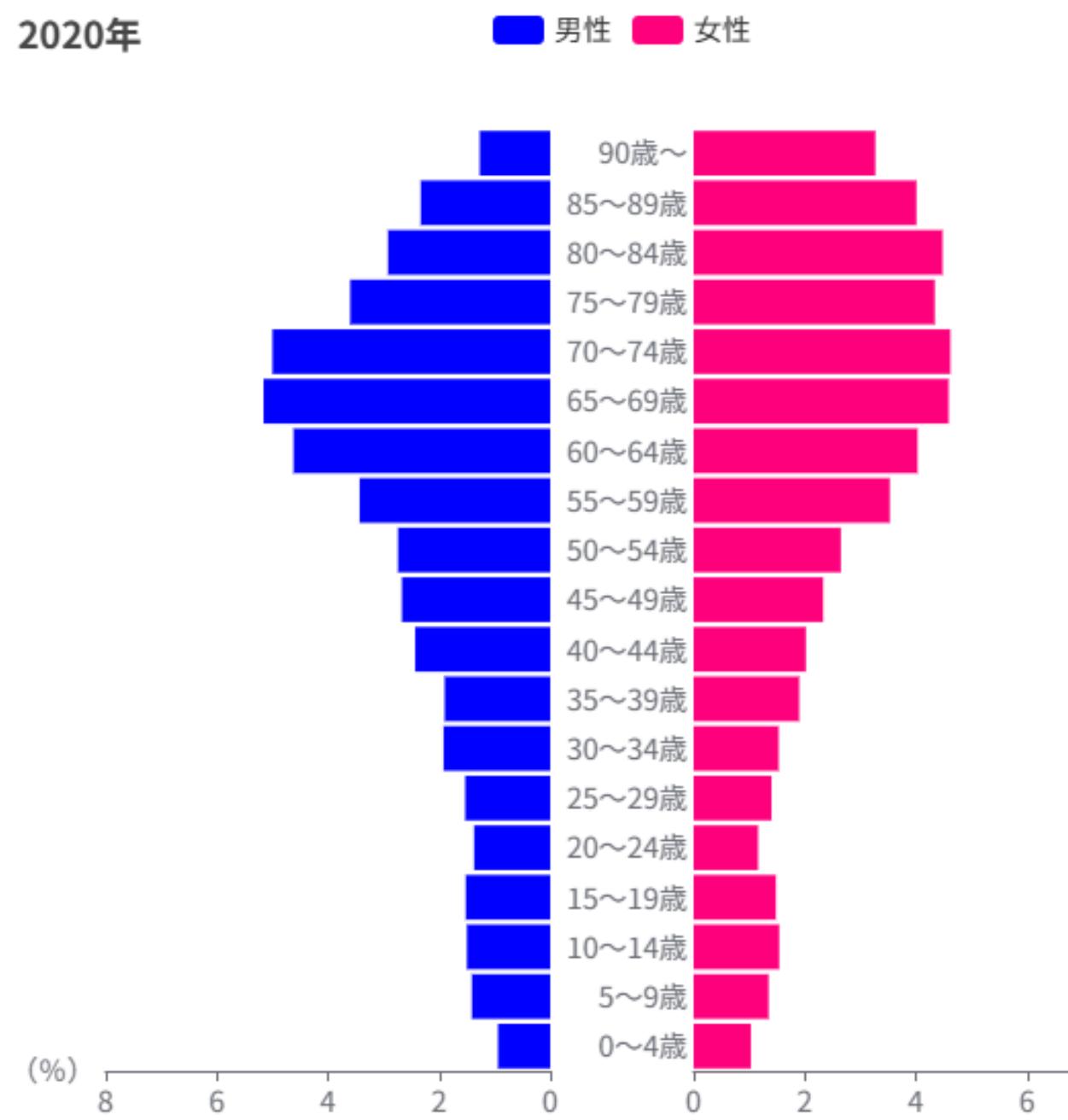
地域の人々が守り、繋ぐ文化



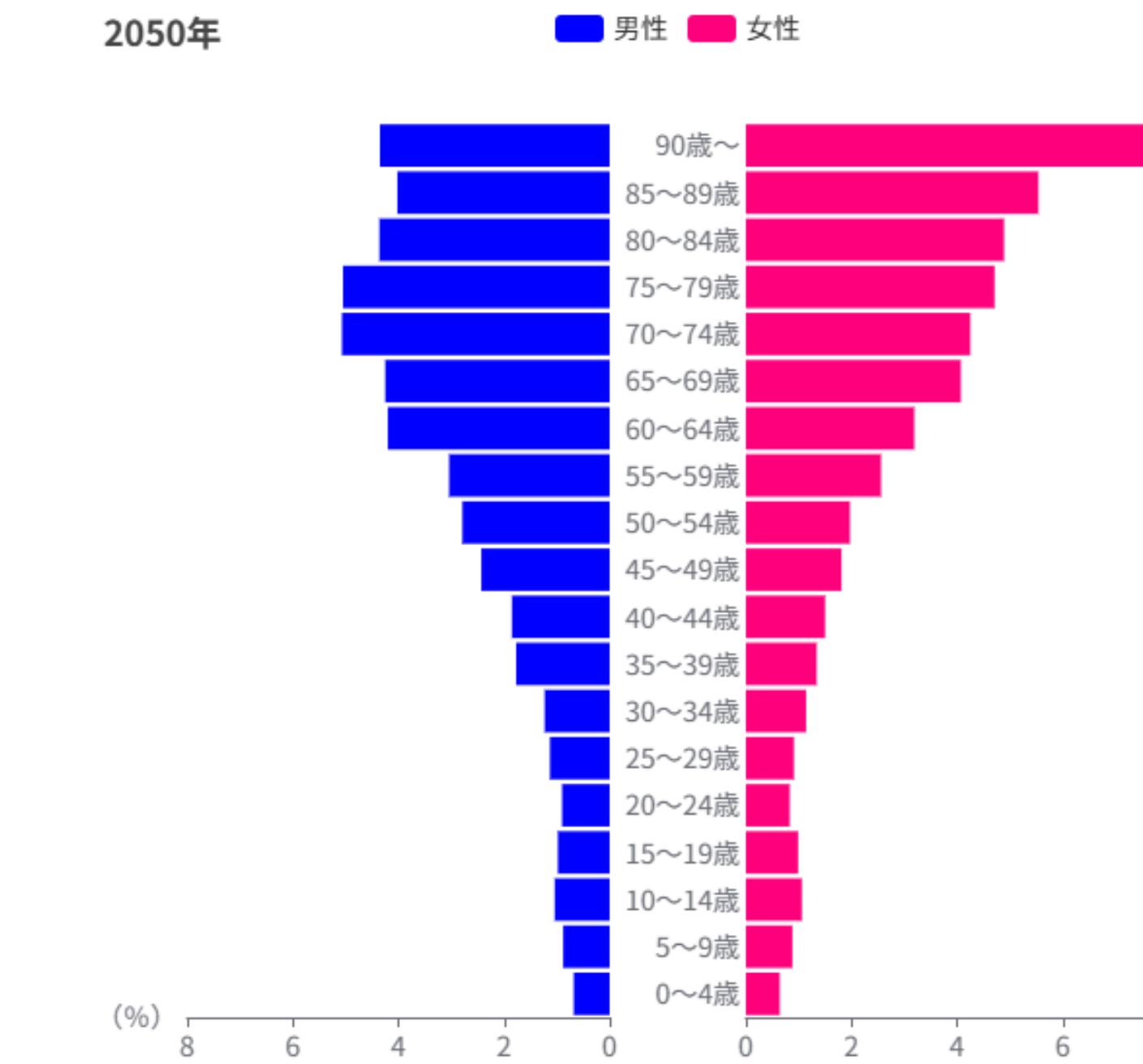
浜松市天竜区の抱える課題①

人口ピラミッド
静岡県浜松市天竜区

2020年



2050年



老人人口（65歳以上）：12,183人（45.58%）
生産年齢人口（15歳～64歳）：12,336人（46.16%）
年少人口（0歳～14歳）：2,076人（7.77%）

老人人口（65歳以上）：6,721人（58.27%）
生産年齢人口（15歳～64歳）：4,217人（36.56%）
年少人口（0歳～14歳）：597人（5.18%）

【出典】RESAS 人口マッパー人口構成分析（総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」）

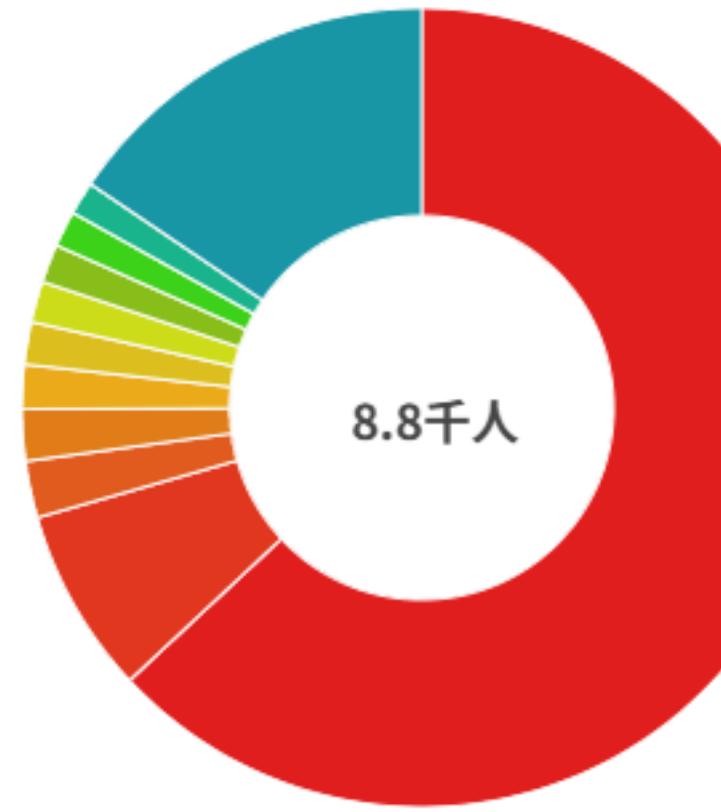
2050年には生産年齢人口が約37%まで減少し、
文化の担い手が不足することが予測されます

浜松市天竜区の抱える課題②

都道府県間の流出入状況（同地域間を含む）

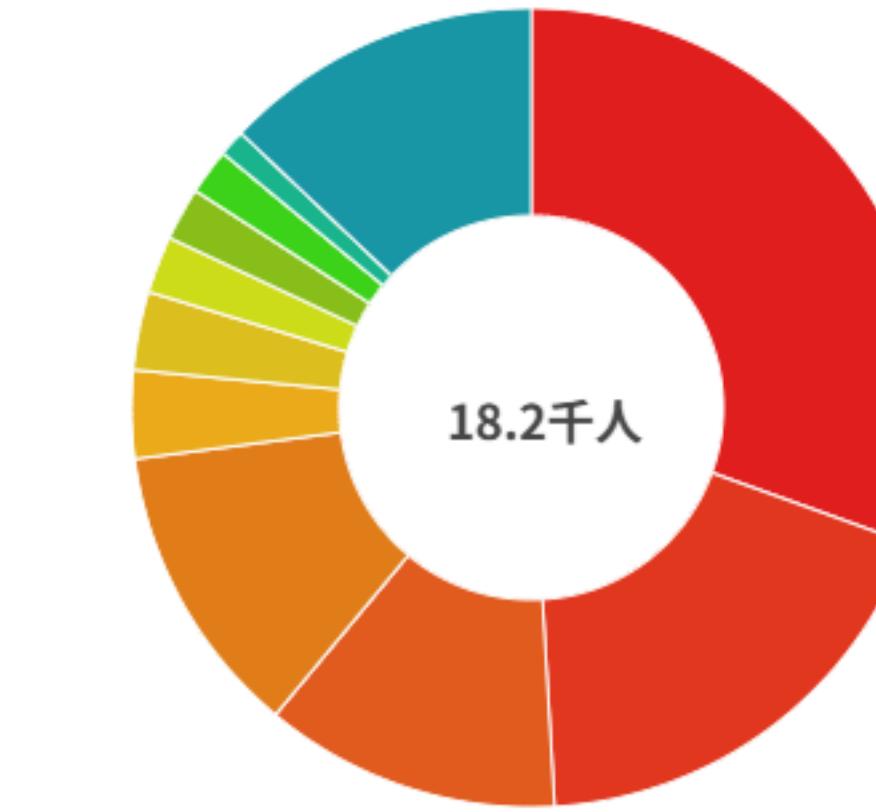
静岡県
2023年

流入進学者
(同地域間を含む)



- 1位 静岡県 5.6千人 (63.05%)
- 2位 愛知県 0.7千人 (7.52%)
- 3位 神奈川県 0.2千人 (2.29%)

流出進学者
(同地域間を含む)



- 1位 静岡県 5.6千人 (30.5%)
- 2位 東京都 3.4千人 (18.56%)
- 3位 愛知県 2.2千人 (11.98%)

【出典】RESAS 人口マップー新卒者就職・進学分析（文部科学省「学校基本調査」）

静岡県全体で、若者の県外への転出超過となっている課題がある

現場の声が示す課題

調査対象：旧田代家住宅を保存している方

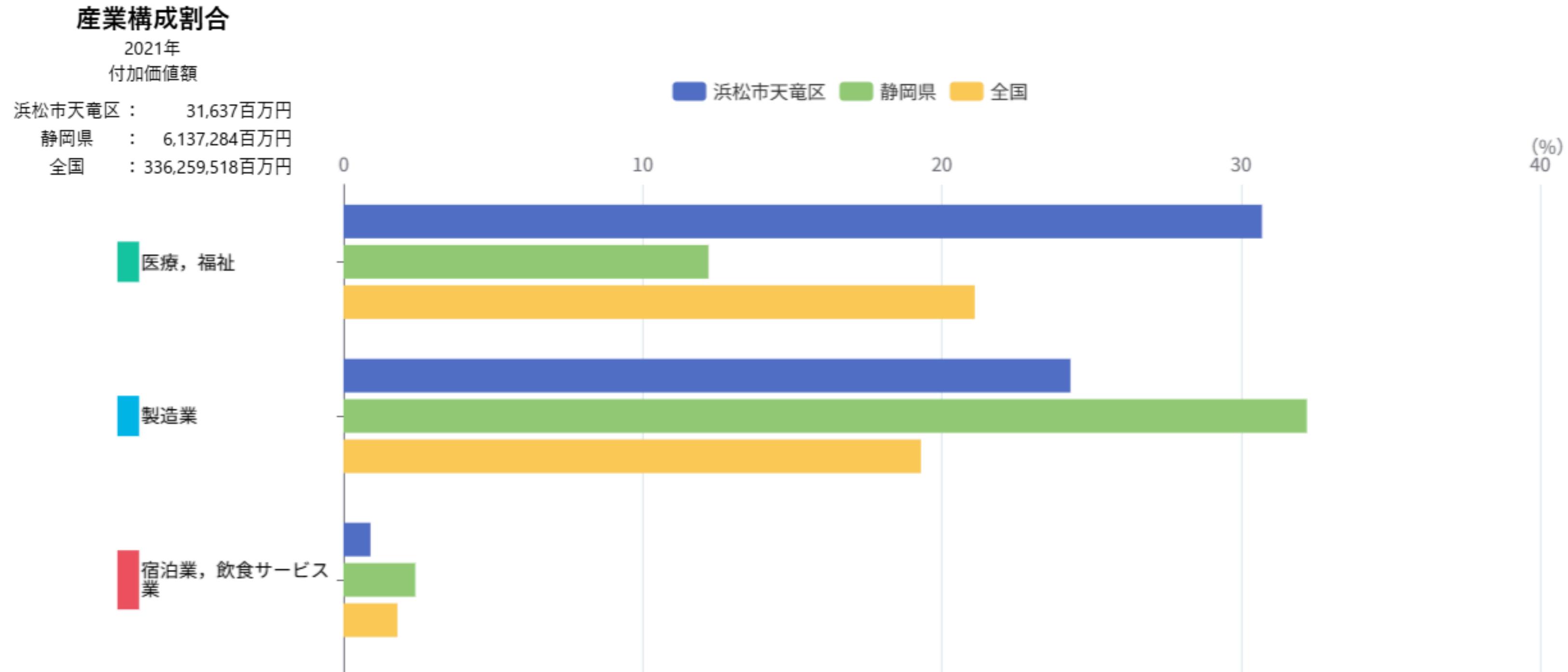
質問の内容：

- ・文化や伝統を守るためにしていること
- ・継承する上での課題はなにか

主な回答内容：

- ・旧田代家住宅を「文化と歴史とともに次の時代に繋げたい」
- ・そのためには「若者の協力が必要」
- ・課題として「ネット社会で現地に足を運ぶ人が減ってしまった」
- ・「できるだけ若者に広めたい」

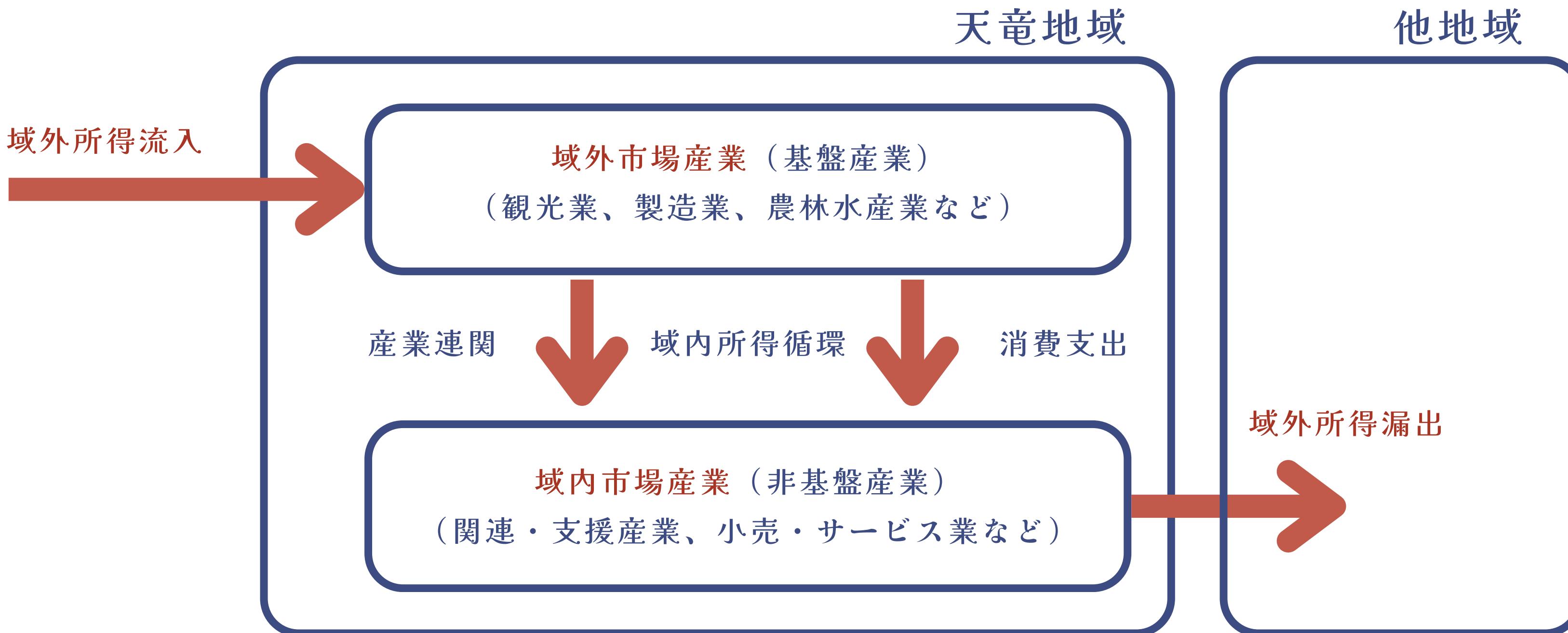
天竜区の産業構造：データが示す実態



【出典】RESAS 産業構造マップー産業構造分析（総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」、総務省・経済産業省「経済構造実態調査（産業横断調査）」）

天竜区の経済が「医療・福祉」と「製造業」に強く依存していることを示しています。
私たちの分析は、観光業が弱いからこそ、そこに大きな『伸びしろ』があると考えました。

分析の視点：なぜ「観光振興」が有効なのかな

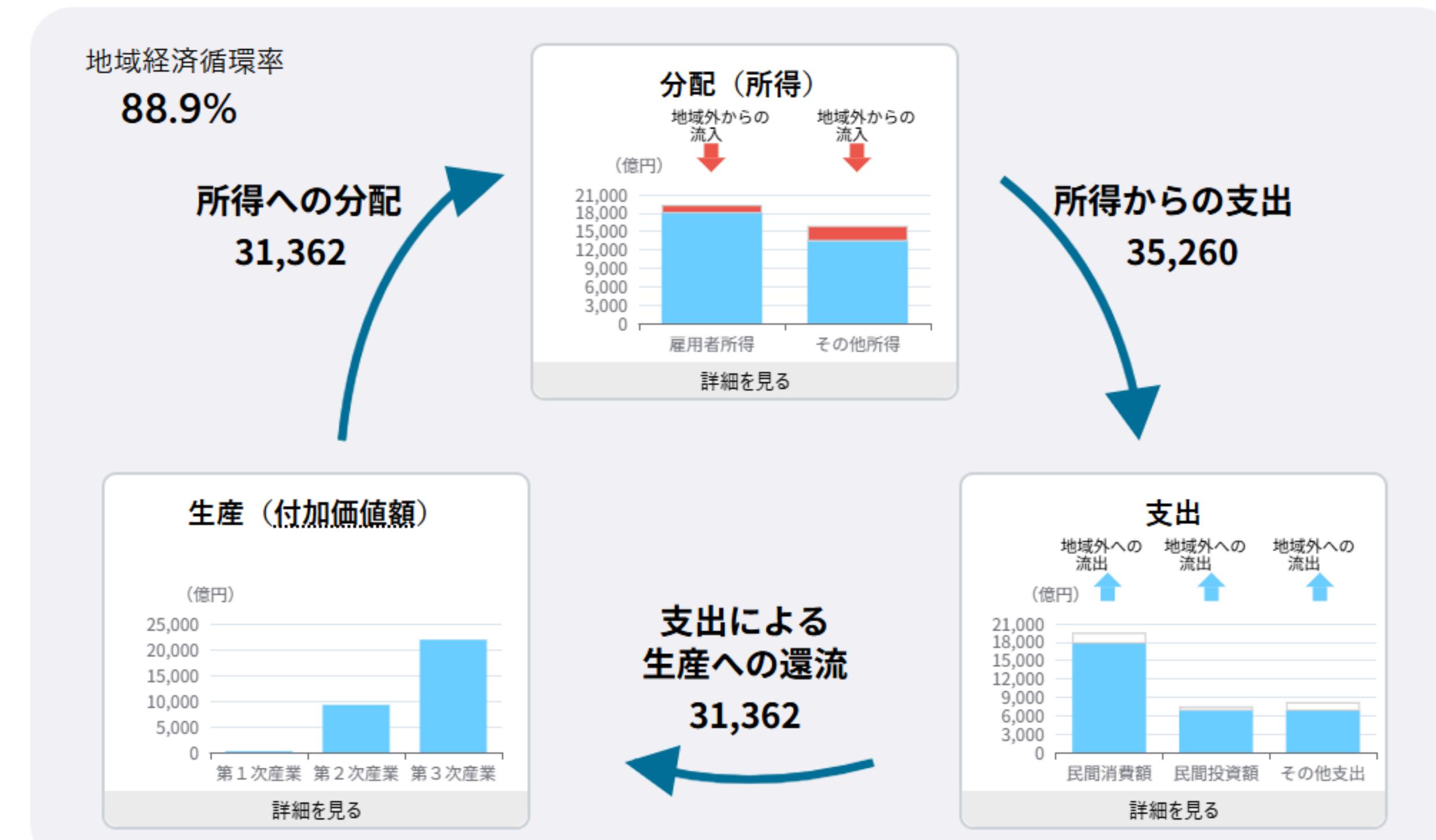


出典：松原宏編『地域経済論入門』古今書院、2014年、p.14を参考に作成

地域経済は、地域外から所得を稼ぐ産業によって成長します。
観光業は、天竜区にとって重要な「外から稼ぐ産業（域外市場産業）」です。

データで見る課題：お金の流出

地域経済循環分析 2018年 指定地域:静岡県浜松市

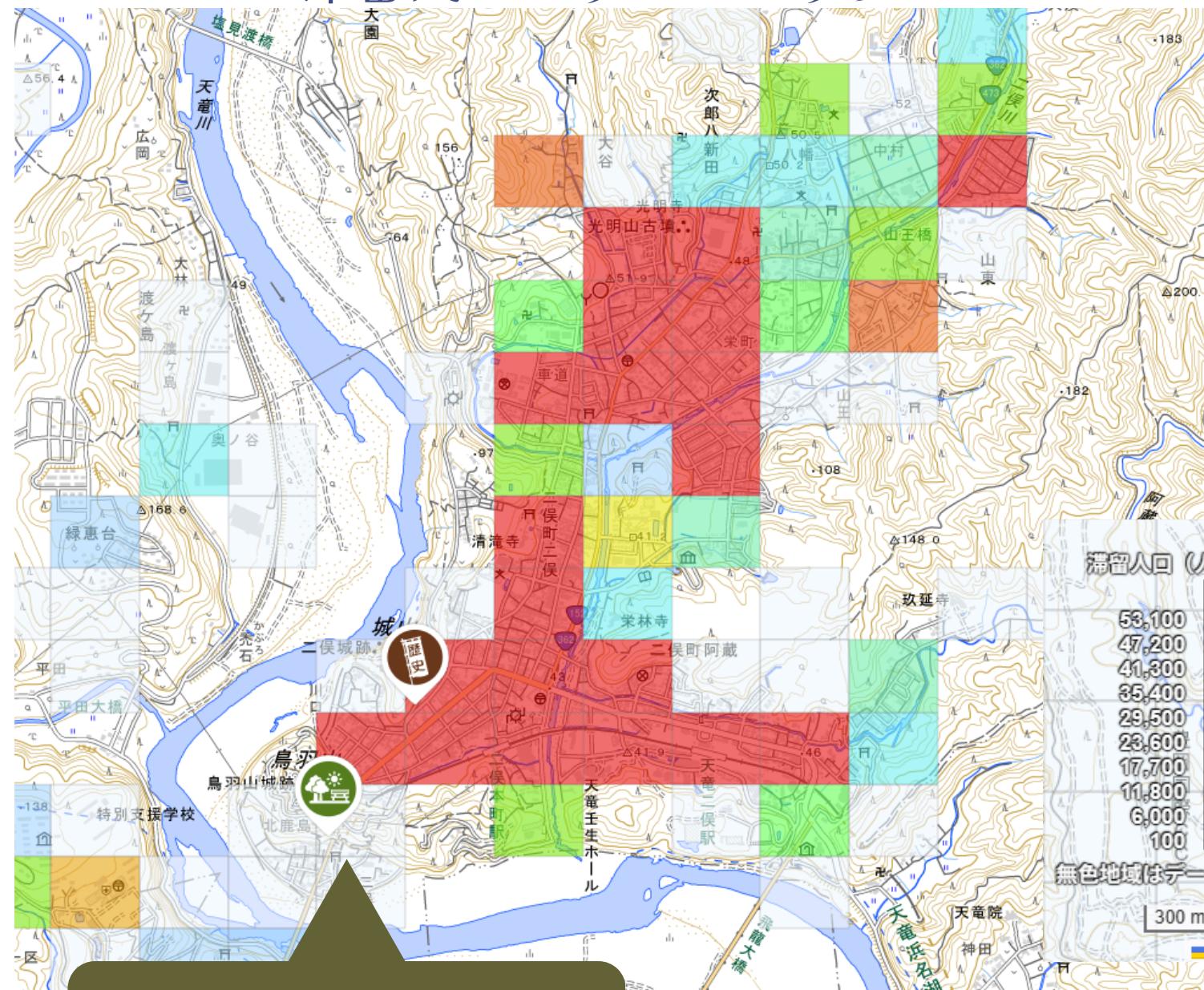


【出典】RESAS 地域経済循環マップ—地域経済循環分析（環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成））

浜松市で得られた所得（分配）のうち、大きな割合が「区外に流出」している。

天竜区のポテンシャルと課題

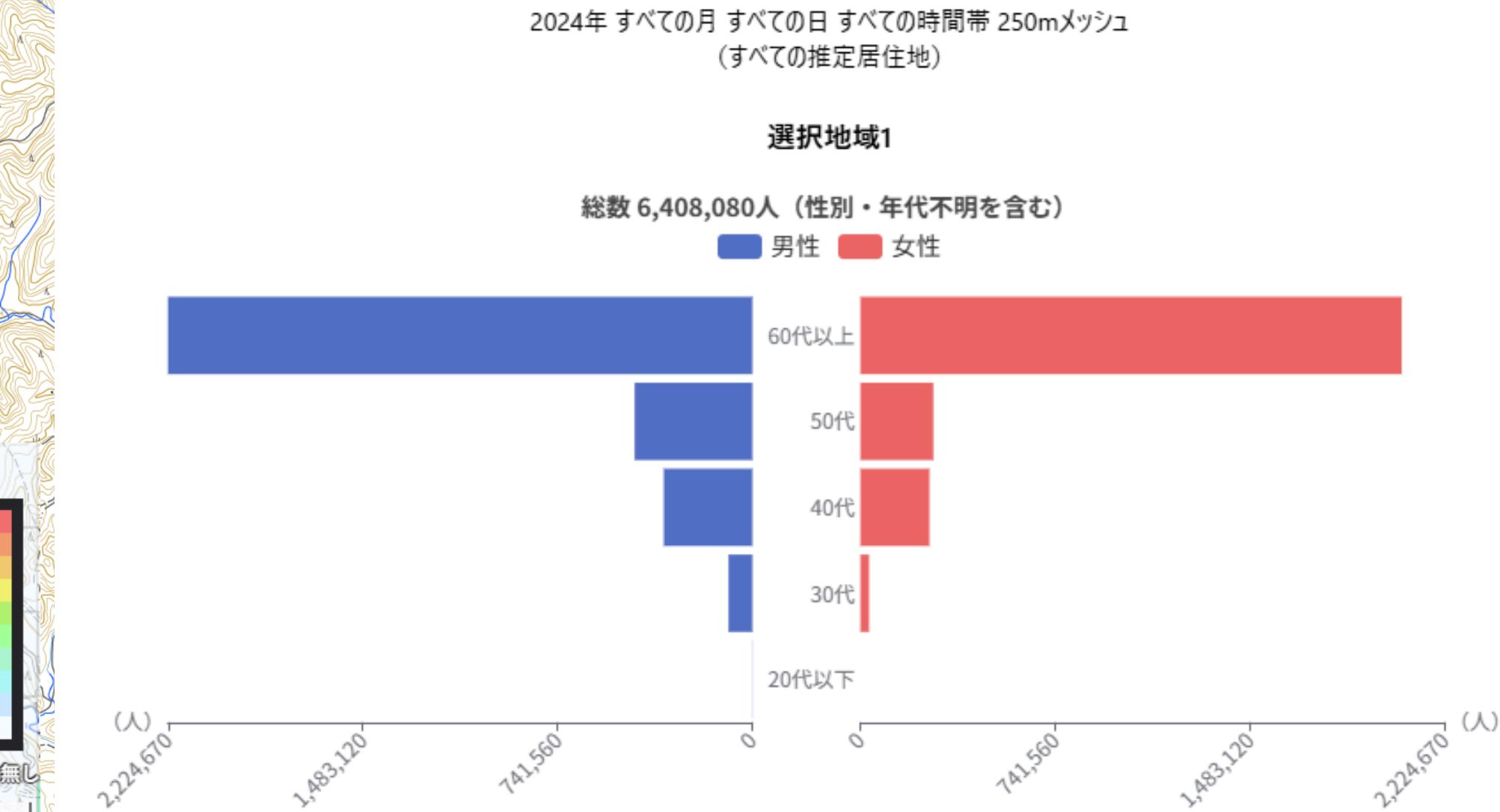
滞留人口メッシュマップ



旧田代家住宅主屋
平成27年11月17日国登録
有形文化財（建造物）

天竜区の文化財の近くを通過しているが、立ち寄らない人々と
若者が不在のまち

滞留人口ピラミッド



【出典】RESAS 観光地マップー観光地分析・滞留人口メッシュ・滞留人口ピラミッド
(公益社団法人日本観光振興協会「全国観光情報データベース」日本ソフト販売株式会社「電話帳データ」国際航業株式会社「住所正規化コンバータR7」
株式会社オープントーン「RESAS用アイコン」map data ©地理院タイルLocationMind xPop © LocationMind Inc.)

なぜ若者は文化財に興味を持たないのか？

ファーストプリンシップル思考で分析

「見るだけ」「難しい」という既存の文化財体験の前提を問い合わせ直す

興味関心と アクセスの課題

- 情報発信が高齢者向け中心
- 若者向けSNS発信が不足
- 交通アクセスが不便
- 若者の関心と合致していない

体験機会の課題

- 一方的な観覧スタイル
- インタラクティブ要素がない
- 写真撮影など制限が多い
- 体験型コンテンツの不足

自分事化欠如 の課題

- 世代間交流の機会不足
- 若者参加の仕組みがない
- 文化継承の断絶
- 若者視点の企画・運営不足

課題の根本原因：「文化財」と「若者」をつなぐ接点と仕掛けの不足

政策アイデア

「かるたで巡る天竜物語プロジェクト」



文化財

×



物語

×



遊び

「見る」だけの文化財から「遊ぶ」「体験する」「巡る」文化財へ

かるたを使って若者にも天竜の伝統を広めよう！

伝統文化に少しでも興味を持ってもらい、若者が地域を動かす主体となる！

アクションプラン



① デザイン

文化財かるた制作

読み札・取り札創作

QRコード連携



② 実施

かるた大会開催

文化財ウォーク

巡りスタンプラリー



③ 連携

地元商店街協力

教育機関との連携

若者運営チーム

アクションプラン①：デザイン

文化財かるたの制作とデジタル連携



天竜区の文化財を題材にした、美しいイラストと詩情あふれる読み札で構成される44枚のかるた

- 地元のイラストレーターと協力し、文化財の魅力を視覚化
- 地域の文芸団体と連携した読み札の制作
- QRコードを各札に埋め込み、詳細情報にアクセス可能



かるたに掲載されたQRコードのスキャンで詳細情報へアクセス

サイト機能：

- 文化財の詳細な歴史と見どころを解説
- 360度パノラマビューで内部を仮想体験
- 関連イベント情報とかるた大会の参加案内
- SNSでの共有機能で拡散促進

アクションプラン②：実施と連携

各種イベントの実施



天竜文化財かるた大会

年4回開催（季節ごと）

- ・児童の部、生徒・学生の部、一般の部
- ・天竜区特産品をプレゼント
- ・浜松市内の大学生がサポート



かるたで巡る文化財ウォーク

月1～2回開催

- ・かるたに登場する文化財を実際に巡るツアー
- ・QRコード付きスタンプラリー形式
- ・地元ガイドによる解説付き



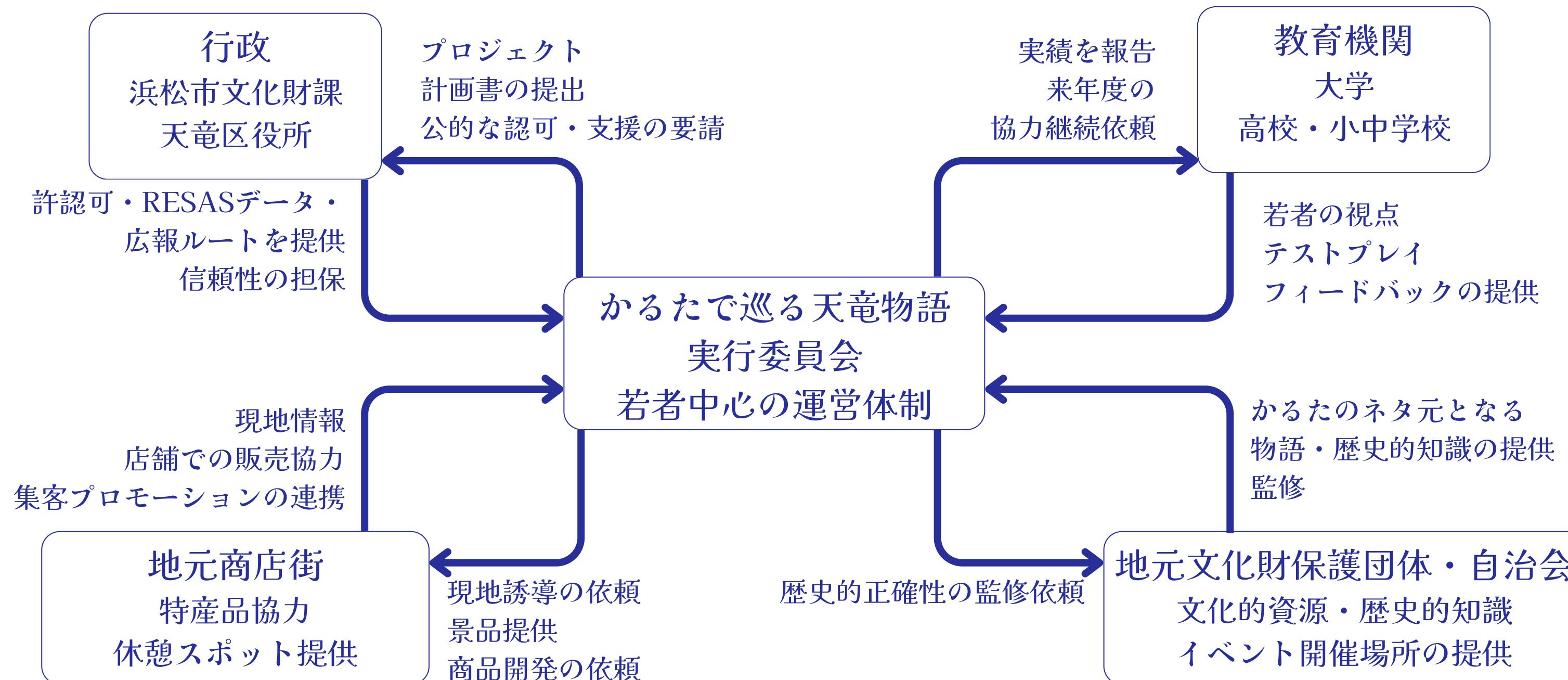
かるた制作ワークショップ

季節ごとに開催

- ・新たな文化財の発掘・選定
- ・高校生・大学生が中心となって札を制作
- ・地域住民からの読み札公募も実施

アクションプラン③：連携

地域連携フロー



期待される効果（定量的評価）

KPI（重要業績評価指標）と経済効果

かるた販売数

1,000セット/年

3年間で3,000セット販売

- ・市内小中学校への配布
- ・観光施設での販売
- ・オンラインショップ

イベント参加者数

2,400人/年

月2回開催×100名参加

- ・かるた大会：400人
- ・ウォークイベント：1,600人
- ・関連ワークショップ：400人

Webサイトアクセス

15,000PV/年

QRコードからの遷移率35%

- ・かるた札情報：8,000PV
- ・イベント情報：5,000PV
- ・観光・文化財情報：2,000PV

参加者1人
あたりの
消費額試算

飲食費2,500円
交通費1,200円
お土産1,800円
体験料1,000円
合計 6,500円

年間経済効果

約1,560万円

$$2,400 \text{人} \times 6,500 \text{円} = 15,600,000 \text{円}$$

このプロジェクトは、文化継承だけでなく、地域経済にも貢献します。

まとめ

私たちは、このプロジェクトを通じて
天竜の文化財に新しい命を吹き込み、
未来につなぐ物語を創造します

"かるた"という遊びを通じて、
若者と文化財が出会う新しい舞台を

ご清聴ありがとうございました